

# 北海道浮魚ニュース

平成 14(2002)年度 12 号 (通巻 No.132)

2002 年 8 月 9 日

北海道立水産試験場

## 平成14年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報発表される

8月5～6日に東北区水産研究所(塩釜市)において、平成14年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、水産庁のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産庁ホームページ URL : <http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>

### 【漁況予報】(図1参照)

予測期間：2002年8月中旬～12月

予測海域：北西太平洋(道東沖から常磐沖)

予測漁業：サンマ棒受網

#### 来遊量

来遊資源量は昨年並。

#### 漁期・漁場

初期漁場は、道東から色丹島沖に形成される。漁期当初の漁況は低調であるものの、沖合からの魚群の加入に伴い漁況は好転する。魚群の南下は例年より早く、9月上旬には三陸沖にも漁場が形成される。

#### 魚体

漁期当初は中型・小型魚主体であるが、沖合から加入する魚群は大型魚主体である。また、昨年と比較して大型魚の体長モードは1cmほど小さく、肥満度が低い。

大型魚：32cm以上，中型魚：24～29cm，小型魚：24cm未満。

沖合域：東経147度以東，沿岸域：147度以西。

## 解説

### 来遊量

6月11日から7月22日に、145°Eから177°Wにおいて、中層トロールによるサンマの漁獲調査を行った。この結果を昨年と同海域の162°E以西での結果と比較すると、1曳網あたりの平均採集個体数は827個体で、昨年の960個体をやや下回った。魚体は体長29cm以上の大型魚の割合が高く33.7%(昨年は12.2%)、中型魚は16.5%(同11.0%)であった。

この他、6月中旬から7月上旬に、148°20'E以西(沿岸域)において、流し網による漁獲調査を行った結果、流し網1反あたりの採集尾数は2.1個体で、昨年(9.9個体)を下回った。なお、147°Eから155°Eの調査が不十分であったため、この海域での魚群分布を正確に把握することができなかった。

以上の結果を総合すると、本年漁場に来遊するサンマは来遊尾数では昨年並み(もしくはやや下回る)、重量では昨年を上回るものと考えられた。

## 漁期・漁場

沿岸を北上した群れが少なかったことから、漁期当初の漁況は低調であるものの、沖合からの魚群の加入に伴い漁況は好転すると予想される。道東沖の親潮域の水温は昨年より低く、漁場の沖合化の指数となる沖合における親潮前線の位置が平年並みからやや北寄り(つまり、沿岸より)であることから、初期の漁場は道東から色丹島沖に形成されると考えられる。また、道東沖の水温が低いことや、魚群の南下を阻む暖水塊や津軽暖流の強い張り出しがないことから、三陸沖への魚群の南下は昨年よりも早いと考えられる。

## 魚体

現在、10トン未満船が道東沖で漁獲しているサンマの魚体は中型・小型魚が主体であること、調査船が沿岸域で漁獲したサンマの魚体は、小型魚主体の大型魚混じりであったことから、漁期当初は中型・小型魚主体の大型混じりで推移すると考えられる。

沖合域での調査の結果、7月上旬には155°Eから160°E付近に魚群が集中して分布していることが確認された。この海域では、水温14.1以下の低水温域にサンマの分布が多く、15以上では少なかった。採集されたサンマの体長組成は、20cmと30cm付近にモードが見られた。このように、漁期前の沖合域における今年の魚群分布の特徴は、低水温域に魚群の分布が偏っていたこと、調査海域全体にわたり大型魚の群に中型魚および小型魚が混在していたことが上げられる。以上のことから、沖合から加入してくる魚群の魚体は、大型魚主体の中型・小型魚混じりになると予想される。

この他の魚体の特徴として、大型魚の体長は昨年より1cmほど小さいこと、肥満度が低いこと(昨年より痩せている)が上げられる。

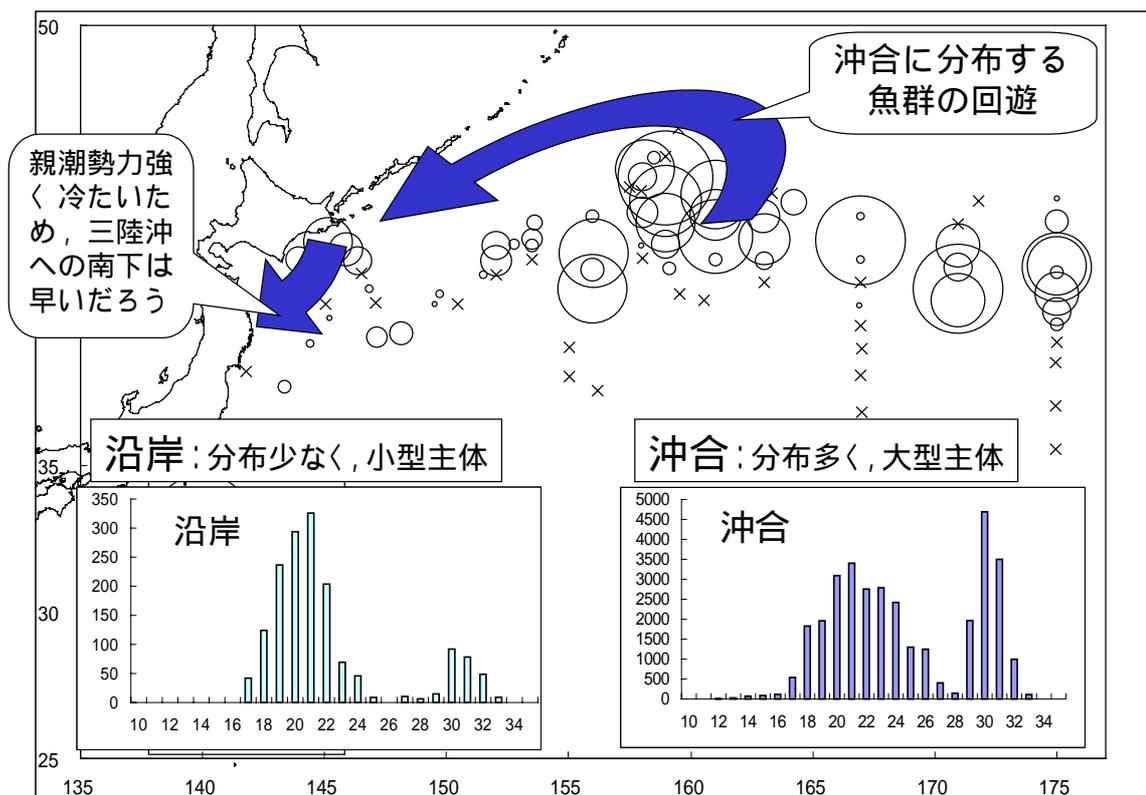


図1 2002年サンマ漁況予報の模式図。

図中の「○」は、調査点毎のサンマの採集量を示し、円が大きいほど採集量は多い。「×」は、採集がなかったことを示す。

矢印は回遊経路を示すもので、太さは来遊資源量と関係はない。

体長頻度分布のグラフは、縦軸が尾数(尾)、横軸が肉体長(cm)を示す。

## 【海況予報】（図2参照）

予測期間 2002年9月～11月

予測海域 北西太平洋

### 黒潮

- ・近海の黒潮の北限位置は、平年並からやや北偏（ $36^{\circ}\text{N} \sim 37^{\circ}\text{N}$ ）で推移する。

### 黒潮系暖水

- ・黒潮系暖水の北限位置は、近海で平年並み、沖合で北寄りに推移する。
- ・近海では  $40^{\circ}\text{N}$  を越える。
- ・沖合では  $148^{\circ}\text{E} \sim 150^{\circ}\text{E}$  で  $41^{\circ}\text{N}$  を越える。

### 暖水塊

- ・鮫角沖の暖水塊は北東へ移動する。

### 親潮

- ・親潮第1分枝の張り出しは、北偏（ $40^{\circ}30'\text{N}$  以北）で推移する。
- ・親潮第2分枝の張り出しは、平年並（ $39^{\circ}\text{N}$  付近まで）で推移する。
- ・三陸南部から常磐北部近海では、一時的に冷水域の影響がある。

### 津軽暖流

- ・津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢（ $143^{\circ}20'\text{E}$  付近）である。

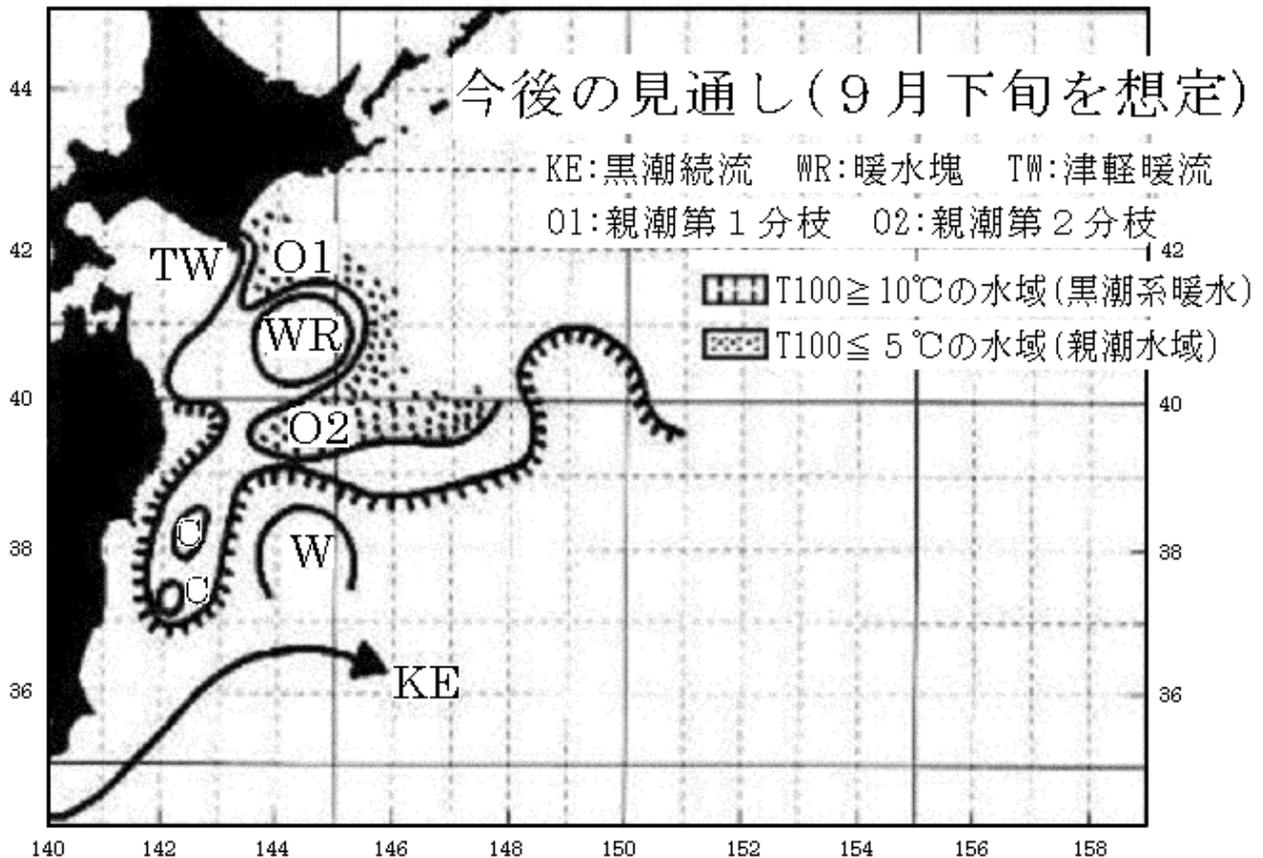


図2 海況の見通し(9月下旬を想定)